

令和2年 上半期  
火災・救急統計

松山市消防局

# 目 次

第1	火災の概況	1
1	火災件数	1
2	火災による損害	1
3	死傷者数	1
4	出火原因別の火災発生状況	2
5	損害額	3
6	近年の火災状況	3
7	地区別の件数と出火率	4
8	地区別件数の推移	5
9	住宅用火災警報器の奏功事例	6
第2	救急の概況	7
1	救急出動件数・搬送人員の状況	7
2	医療機関別搬送状況	8
3	事故種別・傷病程度別搬送人員の状況	8
4	応急処置実施状況	9
5	地区別救急発生状況	10

火

災



# 第1 火災の概況

松山市での令和2年上半期（1月～6月）の火災概況は、火災件数49件、損害額1億280万8千円、死者6人、負傷者10人となっています。

## 1 火災件数

令和2年上半期（1月～6月）の出火件数は49件で、前年同期（72件）と比べて23件減少しています。

（▲は減少）

		令和2年	令和元年	前年同期比
総火災件数		49	72	▲ 23
種 別	建物火災 (住宅火災)	38 (27)	47 (30)	▲ 9 ▲ (3)
	車両火災	2	2	0
	林野火災	2	1	1
	船舶火災	0	0	0
	航空機火災	0	0	0
	その他の火災	7	22	▲ 15

※その他の火災とは、田畑や河川敷の枯草、屋外に放置された物件等が燃えた火災をいいます。

## 2 火災による損害

令和2年上半期（1月～6月）の火災による損害の状況は次表のとおりです。

（▲は減少）

		令和2年	令和元年	前年同期比
焼 損 棟 数	合計	61	73	▲ 12
	全焼	13	11	2
	半焼	5	3	2
	部分焼	13	17	▲ 4
	ぼや	30	42	▲ 12
り災世帯数		45	51	▲ 6
建物焼損床面積 (㎡)		1,405	1,946	▲ 541
建物焼損表面積 (㎡)		329	310	19
林野焼損面積 (a)		6	1	5
損害額 (千円)		102,808	64,162	38,646

## 3 死傷者数

令和2年上半期（1月～6月）の火災による死者は6人で、前年同期（5人）と比べて1人増加しています。また、火災による負傷者は10人で、前年同期（10人）と同数となっています。

（▲は減少）

	令和2年	令和元年	前年同期比
死者	6	5	1
負傷者	10	10	0

#### 4 出火原因別の火災発生状況

令和2年上半期(1月～6月)の火災49件を出火原因別にみますと、「電灯・電話等の配線」が8件(16.3%)、「たばこ」、「こんろ」、「配線器具」が4件(8.2%)、「ストーブ」が3件(6.1%)の順となっています。また、「放火火災」は3件で全体の6.1%を占めています。

※「放火火災」とは、出火原因が「放火」及び「放火の疑い」の火災のことをいいます。

(▲は減少)

	令和2年	令和元年	前年同期比
電灯・電話等の配線	8	2	6
たばこ	4	9	▲5
こんろ	4	9	▲5
配線器具	4	3	1
ストーブ	3	4	▲1
放火	2	11	▲9
たき火	2	11	▲9
火あそび	1	1	0
火入れ	1	1	0
放火の疑い	1	1	0
溶接機・切断機	0	2	▲2
取灰	0	1	▲1
その他	8	10	▲2
不明・調査中	11	7	4
合計	49	72	▲23

## 5 損害額

令和2年上半期（1月～6月）の火災による損害額は1億280万8千円で、前年同期（6,416万2千円）と比べて3,864万6千円増加しています。

（▲は減少）

	令和2年 (千円)	令和元年 (千円)	前年同期比 (千円)
損害額	102,808	64,162	38,646
建物	100,318	63,472	36,846
車両	1,904	93	1,811
船舶	0	0	0
林野	0	0	0
航空機	0	0	0
その他	586	597	▲ 11
爆発	0	0	0

## 6 近年の火災状況

近年の上半期（1月～6月）の火災状況は次表のとおりです。

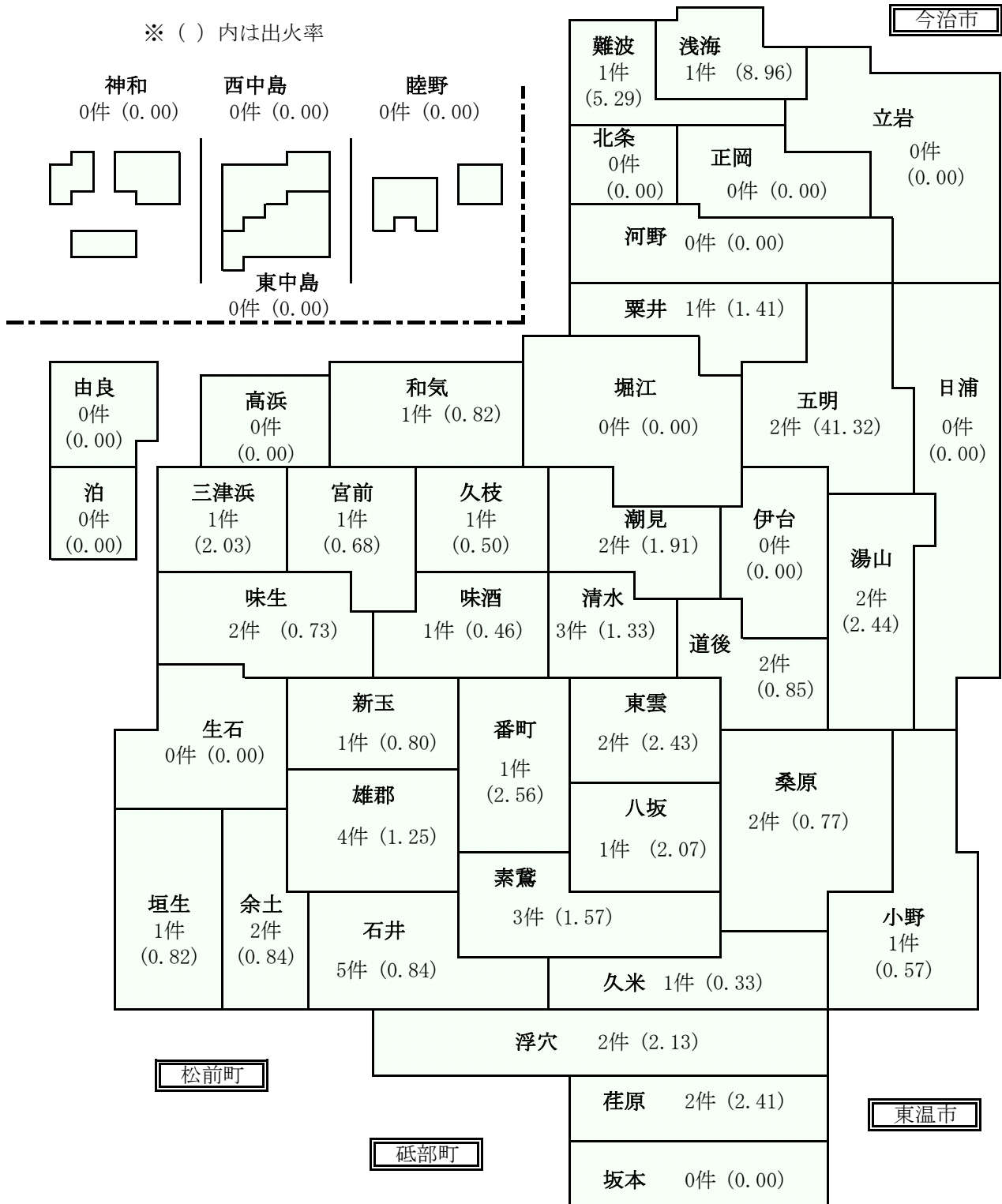
	令和2年	令和元年	平成30年	平成29年	平成28年	平均
火災件数 (件)	49	72	61	82	62	65.2
焼損棟数 (棟)	61	73	75	63	74	69.2
死者 (人)	6	5	5	4	5	5.0
負傷者 (人)	10	10	14	19	12	13.0
り災世帯数 (世帯)	45	51	39	49	50	46.8
り災人員 (人)	98	119	84	80	110	98.2
損害額 (千円)	102,808	64,162	64,753	36,511	68,724	67,392

## 7 地区別の件数と出火率

火災件数を地区別にみると、石井が5件で最も多く、次いで雄郡が4件、素鷲と清水が3件となっています。

出火率を地区別にみると（松山市平均0.92）、五明が41.32で最も高く、次いで浅海が8.96、難波が5.29となっています。

※出火率とは、人口1万人当たりの火災件数をいいます。（令和2年上半期）





## 8 地区別件数の推移

	令和2年	令和元年	平成30年	平成29年	平成28年
番町	1	2	3	2	2
東雲	2	2	1	2	0
八坂	1	1	1	3	0
素鷲	3	3	1	6	0
雄郡	4	1	2	6	5
新玉	1	1	3	3	0
味酒	1	1	2	3	2
清水	3	5	4	7	5
桑原	2	4	0	1	3
道後	2	2	5	6	4
味生	2	4	2	1	2
生石	0	7	3	3	4
垣生	1	0	1	3	1
宮前	1	2	2	0	1
三津浜	1	0	0	0	0
高浜	0	2	4	0	1
久枝	1	4	2	1	3
潮見	2	2	1	1	3
和気	1	3	2	3	1
堀江	0	4	1	3	1
余土	2	2	1	1	3
由良	0	0	0	0	0
泊	0	0	1	1	0
久米	1	1	1	1	2
湯山	2	0	0	2	0
日浦	0	0	0	0	0
伊台	0	0	1	0	0
五明	2	0	0	0	0
小野	1	1	4	2	1
浮穴	2	1	1	3	2
石井	5	5	6	2	7
荏原	2	3	1	6	1
坂本	0	1	1	1	1
浅海	1	0	0	2	1
立岩	0	2	0	1	1
難波	1	2	1	1	1
正岡	0	2	0	1	1
北条	0	0	0	1	1
河野	0	0	0	0	1
粟井	1	1	3	2	0
睦野	0	0	0	0	0
東中島	0	1	0	0	1
西中島	0	0	0	0	0
神和	0	0	0	1	0
合計	49	72	61	82	62

※松山市基準地区（44地区）

## 9 住宅用火災警報器の奏功事例（令和2年上半期）

### 【事例1】近隣住民が早期発見し、初期消火に成功した事例

共同住宅の一室で、一人暮らしの高齢者宅から火災が発生した。近隣住民が警報音に気づき、隣室から出火室に進入し、初期消火に成功した。消火後、火元住民の避難誘導及び通報を行った。

### 【事例2】近隣住民が発見し、早期の通報につながった事例

共同住宅の一室で火災が発生した。近隣住民が警報音に気づき、火元室を確認したところ、煙を発見したため119番通報を行った。

### 【事例3】近隣住民が早期発見し、初期消火に成功した事例

一般住宅の玄関で火災が発生した。近隣住民が警報音に気づき、火元住民が行う初期消火を支援し、消火に成功した。

**住宅用火災警報器は、火災を早期に発見することで、「初期消火」「避難」「119番通報」をいち早く行うことができ、被害の軽減に役立ちます。**

**日頃から、火気の取り扱いには十分注意し、火災予防を心がけましょう。**

**住宅用火災警報器の設置場所などの詳しい情報は、松山市ホームページの「住宅用火災警報器」をご参照ください。**

救 急



## 第2 救急の概況

松山市の令和2年上半期（1～6月）の救急出動件数は11,695件、搬送人員は10,799人で、前年同期と比較し出動件数・搬送人員ともに減少しています。

これは、一日平均64.3件、約22分25秒に1回の割合で救急車が出動し、市民約47人に1人の割合で搬送されたこととなります。

### 1 救急出動件数・搬送人員の状況

事故種別では、急病・一般負傷・転院搬送・交通事故の順となっており、この4種別だけで、出動件数・搬送人員とも全体の約96～98%を占めています。

（▲は減少）

区分	単位	令和2年	構成比(%)	令和元年	構成比(%)	増減
出動件数	件	11,695	100.0	12,979	100.0	▲ 1284
内訳	火災	43	0.4	51	0.4	▲ 8
	自然	0	0.0	0	0.0	0
	水難	9	0.1	10	0.1	▲ 1
	交通	931	8.0	1,105	8.5	▲ 174
	労災	82	0.7	78	0.6	4
	運動	35	0.3	65	0.5	▲ 30
	一般	1,714	14.7	1,738	13.4	▲ 24
	加害	51	0.4	47	0.4	4
	自損	111	0.9	122	0.9	▲ 11
	急病	7,151	61.1	8,129	62.6	▲ 978
	転院	1,383	11.8	1,474	11.4	▲ 91
	その他	185	1.6	160	1.2	25
搬送件数	件	10,731	-	11,960	-	▲ 1,229
搬送人員	人	10,799	100.0	12,033	100.0	▲ 1,234
内訳	火災	9	0.1	9	0.1	0
	自然	0	0.0	0	0.0	0
	水難	4	0.0	5	0.0	▲ 1
	交通	905	8.4	1,077	9.0	▲ 172
	労災	79	0.7	77	0.6	2
	運動	36	0.3	70	0.6	▲ 34
	一般	1,624	15.0	1,664	13.8	▲ 40
	加害	40	0.4	37	0.3	3
	自損	87	0.8	96	0.8	▲ 9
	急病	6,637	61.5	7,540	62.7	▲ 903
	転院	1,378	12.8	1,458	12.1	▲ 80
	その他	0	0.0	0	0.0	0
出動平均(1日)	件	64.3		71.7		
出動間隔		22分25秒		20分05秒		

（注1）出動平均については、前年比1日あたり7.4件減少しています。

（注2）出動間隔については、前年比2分20秒長くなっています。

（注3）構成比は、合計しても100%にならない場合があります。

## 2 医療機関別搬送状況

医療機関への搬送状況は、救急医療機関9,838人(91.1%)、その他の医療機関961人(8.9%)、その他の場所0人となっており、救急医療機関へ搬送する割合が多いです。

告示の別等 \ 事故種別等	急病	交通事故	一般負傷	その他	合計
救急医療機関	6,135	854	1,554	1,295	9,838
その他の医療機関	502	51	70	338	961
その他の場所	0	0	0	0	0
合計	6,637	905	1,624	1,633	10,799

(注1) 構成比は、合計しても100%にならない場合があります。

(注2) 救急医療機関とは、厚生省令により救急告示を受けている医療機関。

## 3 事故種別・傷病程度別搬送人員の状況

傷病程度別では、死亡147人(1.4%)、重症558人(5.2%)、中等症4,165人(38.6%)、軽症5,929人(54.9%)となっており、軽症の占める割合が多いです。

	火災	自然	水難	交通	労災	運動	一般	加害	自損	急病	その他	合計
死亡	0	0	1	4	0	0	13	0	10	116	3	147
重症	0	0	1	17	4	1	52	2	8	320	153	558
中等症	1	0	0	133	28	6	534	5	25	2,239	1,194	4,165
軽症	8	0	2	751	47	29	1,025	33	44	3,962	28	5,929
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	9	0	4	905	79	36	1,624	40	87	6,637	1,378	10,799

(注1) 構成比は、合計しても100%にならない場合があります。

(傷病程度)

死亡 初診時において、死亡が確認されたもの

重症 傷病の程度が3週間以上の入院加療を必要とするもの

中等症 傷病の程度が入院を必要とするもので重症に至らないもの

軽症 傷病の程度が入院を必要としないもの

その他 搬送したが医師の診断がないもの及び「その他の場所」へ搬送したもの

#### 4 応急処置実施状況

救急救命士が行える救命処置（ラリングアルマスク等による気道確保、気管挿管、除細動、静脈路確保、薬剤投与、血糖測定、エピペン投与、ブドウ糖投与）の件数は254件（前年277件）となっています。

事故種別		急病	交通事故	一般負傷	その他	合計
応急処置	応急処置対象人員	6,624	894	1,615	1,613	10,746
	止血	18	38	104	24	184
	固定	28	183	181	41	433
	人工呼吸	31	0	4	5	40
	心マッサージ	13	0	1	1	15
Ⅱ	うち自動	10	0	1	1	12
	心肺蘇生	176	5	24	18	223
Ⅱ	うち自動	17	0	6	5	28
	酸素吸入	1,080	23	76	470	1,649
	気道確保	288	9	30	27	354
Ⅱ	うち経鼻エアウェイ	4	0	0	0	4
Ⅱ	うち喉頭鏡・鉗子等	3	0	9	0	12
救	うちラリングアルマスク等	55	0	4	6	65
救	うち気管挿管	12	0	8	1	21
	保温	261	23	48	82	414
	被覆	34	248	373	56	711
Ⅱ	在宅療法継続	39	0	4	0	43
Ⅱ	ショックパンツ	0	0	0	0	0
Ⅱ	除細動	12	0	0	3	15
	静脈路確保	62	2	7	9	80
救	うち心肺停止前	14	2	0	1	17
	うち心肺停止後	48	0	7	8	63
救	薬剤投与	6	0	4	1	11
Ⅱ	血圧測定	6,239	869	1,505	1,519	10,132
Ⅱ	聴診器	1,110	65	113	128	1,416
Ⅱ	血中酸素飽和度の測定	6,403	876	1,576	1,581	10,436
Ⅱ	心電図	1,750	24	74	237	2,085
救	血糖測定	52	0	1	1	54
救	エピペン投与	0	0	0	0	0
救	ブドウ糖投与	7	0	0	1	8
	その他	6,097	692	1,362	1,357	9,508
合計		23,706	3,057	5,487	5,561	37,811
拡大された応急処置等		15,781	1,836	3,312	3,493	24,422
（うち救命処置）		206	2	24	22	254

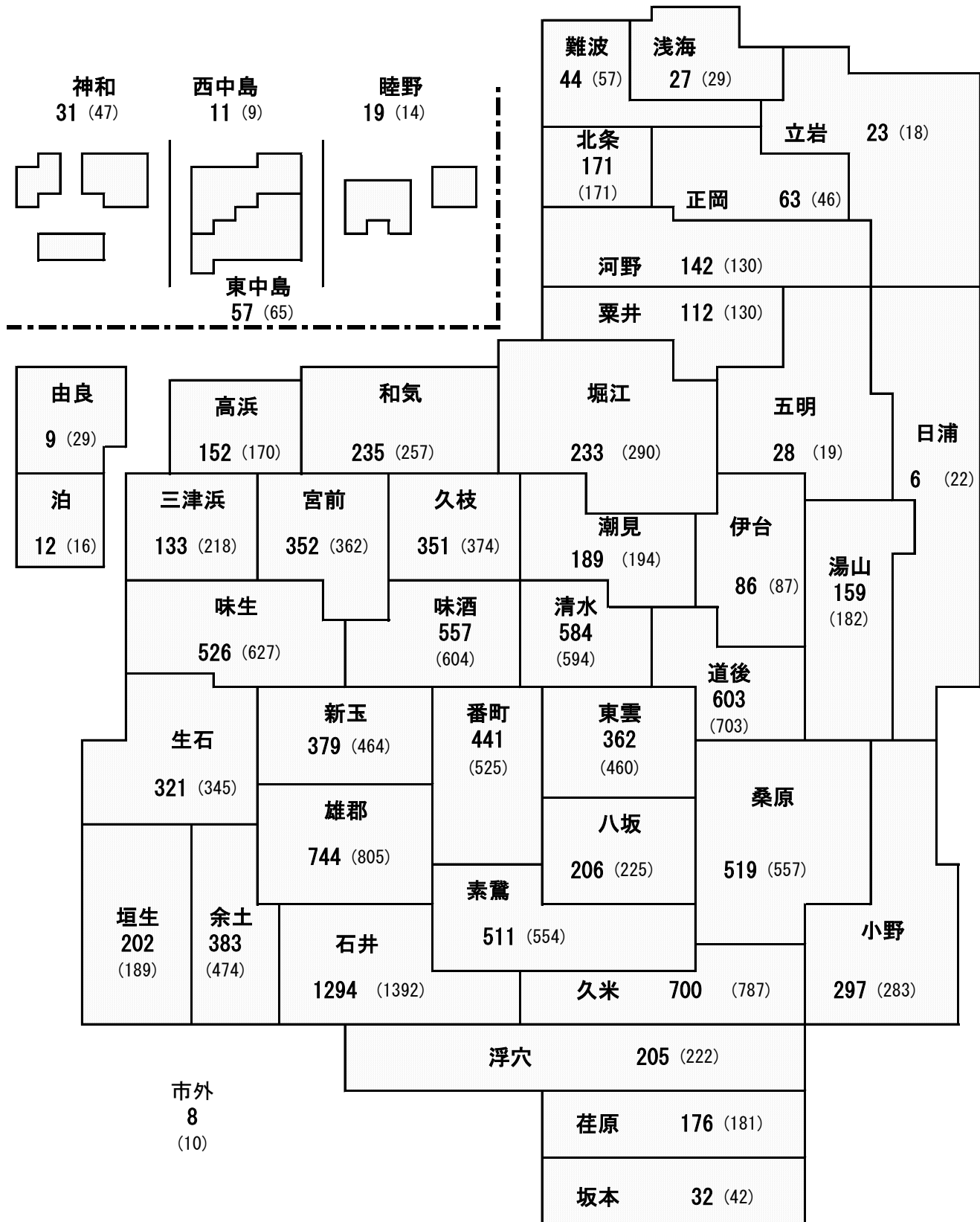
(注1)「Ⅱ」とは、救急Ⅱ課程修了者、標準課程修了者、救急科修了者が実施可能な処置

(注2)「救」とは、救急救命士が医師の指示により実施可能な救命処置

## 5 地区別救急発生状況

出動件数 11,695件 (前年 12,979件)

( ) 内は前年同期の発生状況





## 令和2年 上半期 火災・救急統計

火災統計に関するお問合せは

松山市消防局予防課

TEL: (089)926-9247 FAX: (089)926-9163

E-mail: sbyobou@city.matsuyama.ehime.jp

救急統計に関するお問合せは

松山市消防局警防課

TEL: (089)926-9227 FAX: (089)926-9188

E-mail: sbkeibou@city.matsuyama.ehime.jp